

## ■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

29年度の 成果測定指標	単位	29年度の目標値	29年度の実績値
正味財産比率 (正味財産／総資産)	%	1.60	1.51

### 未達成の要因と分析

■ 育英会の正味財産の増減は、奨学金事業が無利子貸付であり、運営費には基本的に大阪府補助金が充当され、延滞金や収益事業繰入などの収入は補助金から控除されるなど利益が発生し難いため、貸倒引当金（戻入）の多寡により影響される。

■ 目標値が未達成となった要因は、貸倒引当金の増加（1.4億円）により正味財産が減少（0.5億円）したことによるものである。

#### ● 貸倒引当金の増加要因

育英会では、奨学金等貸付債権の適正な管理を行うため、「債権管理規程」に基づき債務者区分（下表参照）を行い、回収の危険度に応じて債権を分類し、リスク債権の管理徹底を図るとともに、分類した債権ごとに貸倒引当金を計上している。なお、貸倒引当金の計上は、債務者区分ごとの債務残高に予想損失率を乗じた額としている。

下記により、債務者区分ごとの債務残高及び予想損失率が目標設定時より増えたため、貸倒引当金が増加した。

- **H29年度**は債務者区分の実質破綻先及び破綻先においては、破綻先に区分される破産等が多く発生したことなどにより、想定以上に債権者区分間移行が進んだことに伴い、債務残高は増となった。

\* 計画値と確定値の差額（債務残高）・・・ 実質破綻先は1.9億円増、破綻先は1.1億円増

- 予想損失率は、**H28年4月**施行の「貸倒引当金の計上に関する事務取扱要領」に基づき**15年**間の回収実績をもとに算出することとしている。

**H29年度**実績の予想損失率（確定値）は**H28年度**までの回収実績から算出しているが、中期経営計画策定時は**H28年度**の回収実績が反映できないため、**H27年度**までの回収実績から予想損失率（計画値）を算出したことに伴い、破綻懸念先及び実質破綻先の予想損失率は上がった。

<債務者区分>

(予想損失率)

区 分	内 容	中期経営計画 (計画策定時)	確定値	摘 要
正常先	奨学生、滞納なし、在学猶予	0.0007%	0.0002%	直近3年間の実績平均
要注意先	延滞期間6ヶ月未満、分納者等	0.0062%	0.0000%	
破綻懸念先	延滞期間10年未満	40.9307%	41.5857%	(計画値) H12年度末の債権のH27年度末までの回収実績をもとに算出 (確定値) H13年度末の債権のH28年度末までの回収実績をもとに算出 * 5年毎に見直し
実質破綻先	延滞期間10年以上等	57.9938%	58.4973%	
破綻先	自己破産等	100.0000%	100.0000%	

### 今後の改善方策

公益目的法人として収支相償の原則を堅持しつつ、今後とも安定した運営が図れるよう財政基盤の確立に向けて、実質破綻先など債権の回収促進に努め銀行借入等負債の圧縮を図るとともに、貸倒引当金の縮減や管理費の節減などにより正味財産の増加に努める。